

進路室通信

令和2年
5月22日(金)
発行
進路指導部

市立柏高校では、5月11日(月)～13日(水)の間に一人1回、健康状態の把握や休校課題の收受等、20分という短時間でしたが登校日を設けました。生徒の姿が校舎に見られる、当たり前であったそのことが、とても尊いことと改めて感じた三日間でした。特に、昨年授業で時間を共に過ごした生徒に会えたときは思わず笑顔になり、それに生徒が応じてくれた際は何とも言えない幸せな気持ちになりました。本当に、学校再開が待ち遠しいです。

その分散登校の日、3年生ではホームルーム終了後、希望者に「奨学金説明」を行いました。例年ですと保護者進路説明会が実施され、一括で説明してました。奨学金の種類や手続きと共に、返済のことも指導しました。メディアも取り上げていましたが、**奨学金が返せない事例**がかなり発生してしまっているようです。教室で少人数なので体育館で大勢に説明するのは異なり、自分事ととらえている感触がありました。

奨学金を延滞しなかった人の特徴

独立行政法人日本学生支援機構が平成30年1月に実施した「平成29年度奨学金の返還者に関する属性調査結果」を見ました。調査の目的は、「奨学金



奨学金申請時の書類作成者(択一)

	奨学金申請時の書類作成者(択一)			
	奨学生本人	本人と親等	親(または祖父母等の家族、親戚)	その他・わからない
延滞者 (3,318人)	35.5%	21.0%	36.2%	7.3%
無延滞者 (2,295人)	54.8%	22.1%	21.4%	1.7%

返還義務を知った時期(択一)

	返還義務を知った時期(択一)					
	申込手続きを行う前	貸与中	貸与終了時	返還開始前	返還開始～督促前	その他・わからない
延滞者 (3,292人)	50.9%	13.9%	6.8%	3.9%	4.5%	6.0%
無延滞者 (2,292人)	89.0%	0.6%	0.7%	0.8%	0.3%	2.8%

2019年度 大学・短大「現役進学率」
全体 54.8% 男子51.7% 女子57.9%

の延滞者および無延滞者の属性を把握し、今後の奨学金回収方針に役立てることとする」でした。調査結果によると、**奨学金申請時の書類作成者** 奨学金申請時の書類作成者は、無延滞者では「奨学生本人」が54.8%であるのに対し、延滞者では「奨学生本人」と「本人と親等」を合せてみると、**無延滞者では76.9%と4分の3以上が申請時の書類作成に奨学生本人が関わっているのに対し、延滞者では56.5%と約半数しか申請時の書類作成に奨学生本人が関わっていない。**

○返還義務を知った時期 返還義務を知った時期は、無延滞者では「申込手続きを行う前」が89.0%と9割近いのに対し、延滞者では50.9%と約半数にとどまり、申込手続きまでの認識が十分でないことがうかがえる。また、延

滞者では、貸与終了後に返還義務を知った者の合計は19.1%で、その半数以上の10.7%は「延滞督促を受けてから」知ったと回答している。調査結果を見ても、申込を行うまでに返済のことを理解し、**自分がかかわって申込手続きを行う**ことがカギであるということが読み取れます。1、2年生も早いうちから理解しておくことは大切です。この調査に関しては次のURLでアクセスできます。
https://www.jasso.go.jp/sp/about/statistics/kusei_chosa/129.html



「コロナ不況で大学入試はどうなるか」

リーマン、震災時を振り返る 旺文社教育情報センターのホームページに、5月7日付で右タイトルの記事があります。リーマンショック、震災時から学び、備えることができるという内容です。当時、大学入試で起こったことをデータをもとに見ていくもので、冒頭に次の3項目が書いてありました。

- ・ 大学への現役志願率の低下、停滞
 - ・ 国立・公立大志向、安全志向(現役志向)、地元志向
 - ・ 文系不人気、理系志向、資格志向
- また、2019年度 大学・短大「現役進学率」は54.8%(男子51.7%、女子57.9%)、専門学校16.3%、就職17.5%、専修・各種学校5.1%でした。
(旺文社教育情報センター)

<http://eic.obunsha.co.jp/index.html>

コロナがどこにどう影響していくのかは未知ですが、過去の歴史から学べることは多々あるはずですが、少しでも参考にしていただければ幸いです。